

子ども達の学校生活を支えているのは、先生ばかりではありません。栄養士の先生や給食室で働く調理員の方々もその一員です。給食室の床はコンクリートです。衛生を考えて、いつも清潔さを保つためです。白い長靴を履いて、動き回っています。上部はガスの火や鍋から出る湯気で暑そうですが、足元は非常に冷たく、腰は痛く、ハードな環境です。

給食の質はとてもの向上しました。旬の食材をいち早く取り入れ、また、珍しい食材も調理法を工夫して、子ども達に紹介しています。手作りにこだわったり、少しでも出来たてのものを子ども達に届けようと、労を省みません。

「食育」という言葉があります。「食」の中には、学ぶべきことがたくさんあります。今、家庭での「食」は希薄になりつつあります。働いている人の多くは、なかなか子どもの夕飯時には帰ることができません。一家団欒の夕食が、今は散り散りです。そんな中、給食の担う役割は大きいです。会う機会はなかなかありませんが、感謝の気持ちを持って欲しいと思います。

<小学6年生の会話から>

- ・ おいしいデザートがあるときは、誰か休まないかなあと密かに思っていたよ。
- ・ 残り物争奪ジャンケンが楽しかった。多い時は、10人以上でやったよ。
- ・ オレは、なんてったってカレーとラーメン。お母さんのものもおいしいけど、給食のはなんであんなにおいしいんだろう。
- ・ 時々、給食の先生が回ってきて、献立のこととか行事との関係のこととか、教えてくれた。なるほどと思った。
- ・ 卒業の時ってケーキが出るでしょ。あれが出ると、卒業って感じがする。
- ・ 苦手なものもあったけど、がんばって食べました。お家ではわがママを言って残してしまうけど、給食って、なんだか食べられるのが不思議。

子ども達が大きくなったのは、家族の愛情のたまものですが、子ども達の「食」の一端を担ってきた給食にも大きな役割があると思います。小学6年生は中学校へ行っても給食がありますが、中学3年生は給食が終わりになります。栄養管理をしっかりして、より一層勉学に励んでほしいと思います。

最近、食物アレルギーのことが問題になっています。心配な方は、学校に相談してください。

今回は給食について考えてみました。教育の場は授業だけではありません。いたるところにある場を見逃さないでください。

「第4回教育センター研究員会」が行われました。



2月22日(金)、本年度のまとめの会がありました。今年度のまとめと課題について、来年度の方向性について、意見が交わされました。先生向けの講座、児童生徒に向けた活動等、好評をいただきました。来年度に向けては、「富士山学習」に関するものが、多くあげられました。先生方の研修会をはじめ、新しい情報やより深い知識や考えを提供できるように、研鑽していくつもりです。